

BSSC 野球部の競技力向上とチームディシプリンの関係性

岡田 凌太 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：ディシプリン，団結力

1. はじめに

スポーツは、ルールがあり成立する。スポーツは社会の中に位置していることから、社会のルールを守るということは大前提である。すなわちプレーヤーは、競技の中だけでルールを守っていればよいというわけにはいかないのである。しかしながら、一部の競技者により不祥事を起こしている現実がある。

「ディシプリン(discipline)」とは、しつけ、規律、統制、秩序という意味である。本学硬式野球部では以前、ディシプリンが曖昧な中でチーム運営がなされていた。そこで、ディシプリンによってチームの基盤を創ることにより、競技成績が向上することとなった。

本研究では、本学硬式野球部のディシプリンがどのように競技成績に関係しているのかを検証し、有効なルール作りを明らかにするものである。

2. 研究方法

- ①文献調査：組織に関するもの
- ②アンケート調査：本学野球部3・4年生22名
- ③インタビュー調査：同10名

3. 結果と考察

部内規則を破った際のペナルティー¹を妥当だと考えている部員が約6割存在している。これらの部員には「規則を形骸化させてはいけない」という意識があることがわかる。他の4割の部員は、そのペナルティーは本意ではないと考えている。また、ディシプリンが競技成績に良い影響を与えていると考えている部員は約8

割存在している。競技力向上にディシプリンが作用しているということが把握できた。

4. 結論

ディシプリンを徹底することで周囲の方から賞賛される。そのことで、チームに対する「愛着心」や「誇り」を持てるようになり、チームへの帰属意識を向上させることにつながる。しかしここで問題は、上述したようにディシプリンに対してネガティブな部員が約4割存在していることである。全員のコンセンサスを得るために、選手自らが主体的に、ディシプリンを創ることで、選手同士が深くコミットメントでき、チームにさらに団結力が生まれるのである。

図1に、チームの団結力向上のメカニズムを示した。

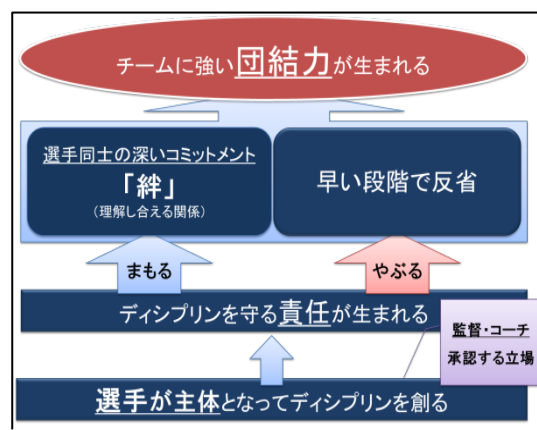


図1 団結力向上メカニズム

引用・参考文献

遠藤俊郎 (2009)『チームスポーツにおける集団規範』山梨大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要 14, 84-94, 2009

¹体罰ではない。

